

# 英國に於ける幼兒保育の發達

白根孝之

イギリスに於て自覺ある幼兒保育の始祖と呼ばるべき人は、彼の有名な社會思想家ロバート・オーエンである。即ち彼は一八一六年幼兒の爲の學校を開いて「二歳から六歳までの子供を收容し、ダンスや唱歌や遊戯をやらせ、出来るだけ戸外で過ごし、彼等の好奇心が動く時にのみ學習させ、徒らに教科書で苦しめることを避けた」のであつた。幼兒の訓練に就いてオーエンは次のやうに言つてゐる、「この學校では子供達はお互に親切を盡し、その小さい力で出来る全てを他人の利益の爲に捧げるやうに訓練される。又その教育と訓育には刑罰も刑罰の怖れも伴はない。悪い行ひをした子供は憎しみや叱責の對象としてではなく、憐みの對象として考へられる。全て不必要な強制や制肘はそこでは行はれない」。

〔オーエン自傳〕一八五六

然し乍ら當時小學校に於て行はれてゐた幼兒の保育はまことに幼稚貧弱なものであつて、オーエンのこの卓見も顧る人が殆んどなかつた。永い歴史を空しく過ごして人間の活動が自覺に達した時今更のやうに顧みられ見出されるのが、斯うした天才の運命である。漸く幼兒の保育に幾分の改良が行はれたのは、一八七〇年イギリスに於けるフレーザーベル協會の設立に之に伴ふ「幼稚園」の創設に促されたものであつた。併し幼稚園は當初専ら上流階級の子供の爲のものであつて、「幼兒學校」に預けられた多くの貧乏な親達の子供はこの恩恵に浴するところが殆んど無かつた。こはいへ小學校及びこの

頃から二三の中心的都市に建てられた保育者養成所に於けるフレーベルの思想の影響には、少からぬものがあつた。斯く緩慢な進歩の末一九〇五年になつて文部省は「五歳以下の子供に關する規程」を發し、その序文で次のやうに告げた。「貧しい子供達のために新しい形式の學校——<sup>ナイスリースクール</sup>「保育學校」を設ける必要がある。そこでは從來の幼兒學校よりも多くの遊戯と睡眠より自由な會話とお話と觀察が行はれねばならない。五歳以下の子供を學校に預けねばならない兩親は、幼兒學校よりもこの保育學校を選んだがよい」。然し當時の社會は當局の要求に應じて直ちにこの種の學校を造らうとはしなかつた。「幼稚園」と呼ばれるものは上に述べたやうにイギリスでは當初から貴族的なものであつたし、小學校の幼兒學校はあつても、施設經營に於ても保育の方法に於ても、フレーベル主義の微塵だに見出されなかつた。幼兒學校がそこで舊態から脱し、保育方法・施設・保姆養成等に於て面目を一新するには、一九〇五年の規程が動機の大きなものとなつたには相違ないが、尙數年の日子を要したのであつた。

この時代までの保育はフレーベルの自己發展、自發活動の根本思想を全然知らないと言つてもよかつた。彼等はまた人間の本性が「内から外へ」發展するものであり、教育者はこれを「導く」べきであるこの一大原則に盲目であつて、外的強制によつて子供の自然性を矯め直さんとする舊式な態度をこつてゐたのである。人間性に對する信念と幼い者に對する愛情の代りに、彼等は只管抽象的理論と計劃に頼つてゐた。イギリスのみならずその他のヨーロッパ各地と同じく、又他の總ての教育機關と同じく、幼兒の保育も亦比較的最近に至るまでこの誤つた方法論に立脚してゐたのである。總ての子供を年齢に應じて一つの群れに纏め、これに抽象的な理論と外的な便宜から定められた時間割と課程表を押しなべて強制し、且つ知識を第一と見る偏知主義と機械的心理學說の教へる方法によつて、宛もトランクに物を詰め込むやうなのが當時の所謂教育であつた。子供の本性から湧き出る力の流れを人爲的な方向に振り向けんところから、最も不自然

な訓練の方法が生れて来る。子供を沈黙に受身に強ひて、これを一定の型にはめんとしたのがこの時代までの所謂舊教育である。

## 二

然るに二十世紀の始めの十年頃から漸く一般の教育思潮が高まり、教師の素養が進むにつれて、この魂を殺すが如き不自然な教育を打破せんとの氣運が熟して来た。知識は生命、人生の一部分であつて決してそれ自身目的たるものではない。幼児の保育はトランクに物を詰めるやうなものではなく、これに食物を與へるやうなものでなくてはならない。子供の欲しない知識を注入するのではなく、彼等の欲するものを與へ以て彼等を內的に富まし豊かにし且つ強めるものでなくてはならない。これが所謂「新教育」と呼ばれて現在に續いてゐる教育運動の保育方面に於ける反映である。而してイギリスの保育界に於けるこの覺醒を促したものに二つの大きな勢力若しくは原因がある。一つはマリア・モンテッソリーの著作「ナイスリースクールムーヴメント」を試みであり、他は「保育學校運動」である。

モンテッソリーの主張は嘗てフレーベルの唱へたところの再強調であり、更にこれを新しい方向に、新しい衣服を著せて發展したものである。幼児が大自然のプランに従つて美しく調和的に發育生長する環境を之に與へよ、教師は案内者たれ、指導者たれ、協力者たれ、子供の従者たれ、——これ等は全々フレーベルがその「幼稚園」なる語に含ませた原意に他ならない。モンテッソリーは更に一步を進めて「科學的技術と洞察とを以て、記録をこり、テストを行ひ、環境・遊具・恩物・成人の行爲の變化が子供の生長に如何なる影響を及ぼすかを實驗しつゝ、二十年の長きに亙る研究の結果、幼児にまつて最も望ましい環境を發見した」のであつた。

元來イギリス人は古い傳統が生んだ誇りを見識を保守性ニに富んだ國民であつて、外來の思想や試みは假令それが一見

如何に優れたものに見えても、直ちに取入れて模倣するまいふこゝは無い。然るにモンテッソーリの刺戟はイギリスの教育界に嘗て見ないほどの力ミ新鮮さをもつて波及して行つた。多くの幼児學校では競つてモンテッソーリ式實驗を始め、必要な機具を購入するために教師が相寄つて身錢を出した程であつた。斯うした試みの結果は勿論その人その場所の條件によつて一様ではないが、イギリスの保育界全體にまつて勿論惡からう筈はない。幾何かの價値ある結論や原理が生れ、健實にして相當の規模を有つ幼児學校が實現された。然し更に重要なのはかうした一二の具體的實績よりも、イギリスの保育界に爾來今日にまで及んでますゝ盛になりつゝある研究的改革的氣運である。もこより保守守舊の汲理漢は孰れの國にもあるこゝであるが、特に保守性に富むイギリス國民としては、今日でも保育に従事する人に存分の自由を與へ、教室や遊戯室を「忙しい工作場」化するこゝを嫌ひ、昔乍らの「お手々を膝に」式の訓練を尊ぶ視學や當局者は少くない。又何等の生彩のない時代後れの教師もある。然しその數は漸次減少しつゝあるこゝは言ふこゝが出来よう。

保育法の改革に與つて力あつた第二の原因は「保育學校運動」の發展である。この運動は一九一八年文部大臣フィッシャーの手で議會を通過された教育改革令、又の名を「兒童の憲章」ミ呼ばれる條例によつて引き起こされたものである。一八一八年と言へば世界大戰の最後の年である。大戰がイギリスのみならずヨーロッパ諸國の教育界に與へた影響には未だ見ざる甚大なものがあつたのであるが、イギリスに於ては既に大戰の開始と共に之に刺戟されて教育改革の氣運が動いたのであつた。蓋し開戦に方つてイギリスが戰場に送るべく募集した壯丁は、必ずしも彼等の意を強ふするに足りるものではなかつたし、更に遠く平和克復後の國情を慮る達識の士にまつては、イギリスの將來に對する深い杞懼があつた。一九一五年五月ロンドン・タイムス紙の教育附録は「いかにせば戦後の國運に處する國民の兒童を教育するに足りる學校を作るこゝが出来るか」ミの社説を掲げ「この戦争の終つた後の世界に確乎たる信念をもひて進むには、我々は先づ教育され訓練され

た國民ではなくてはならない」言ひ、同月時の文相ピースは大戦の勝利を豫告した後、「戦勝の布告は我々を満足な平和に呼び戻すものではなく、勝利の持續に必要な努力のために我々を招集するであらう」ことを覺悟せねばならない」言明してゐる。フィッシャー條例は斯くした動機の下に起草されたものであつて、草案者フィッシャー自身「それは大戦によつて曝露されたイギリスの缺陷が生んだものであり、この缺陷の修理補填を目的とする」言つてゐる。従つてその主眼點は教育の機會を均等且つ充分ならしめ、イギリス人の身體・精神・心情を健全ならしめ、その爲めに教育の國家的統一を企てたものである。この條例が幼児の保育を獎勵したのは當然である。かくして「ナースリー・スクール」の運動もなつたのである。従つて教育の他の全ての分野に於けると同様、イギリスの保育界にまつても世界大戦は進歩への大きな動機もなつたと言ふことが出来る。

この運動には二つある。一は保育學校ヌクレールで他の一つは保育學級クラスと呼ばれてゐる。保育學校には他方の教育當局の設立になるものと私立のものがあるが、孰れも當局から總經理費の半額若しくはそれ以上を補助されてゐる。一九二六年現在に於てこの種の保育學校は五十人から二百六十人の幼児を收容するものにとり、大小二十七校あつた。浴場・寢臺・食堂・病室等の設備があり、幼児は二十五人乃至三十人を一群團して一人の保姆が附添ふ。幼児は一日をこゝで過ごし晝食は學校の手で給されるが、両親も働いてゐる者の子供は午前七時から夜にいたるまで學校に預り、三食も學校で攝る。學校は特に幼児の健康・衛生に留意し専任の醫師を置いて身長・體重、一般健康狀態の表を常に更新してその増進を圖る。共に、知性・感情・動作の觀察・テスト表を作り、精神的・肉體的發育の相關々係を明かにするやうにしてゐる。そのために保育學校はこの頃から英國に興つた兒童研究の中心をなすやうになつた。

保育學級クラスといふのは保育學校と異つて獨立した學校でなく、從來の幼児學校内の更にその一部をなすもので、従つて收

容する幼児數も少く設備も不完全であるが、手輕に設立出来る所から條例發布後急速な勢で新設され、マンチェスターだけで一九二六年には五十を算するにいたつた。其後も保育學校を比して遙に高い増加率をもつて各州に設けられたが、その大部分は幼児學校の從來の保育を大した變りがない。保育級のための特別の建物ほもこより、運動場、遊戯室、浴場、寢臺等もなく、唯幼児學校の一隅を借りて、ミルクを與へ、僅かばかりの玩具を給し、カンバスを張つた輕便寢床がある程度のものである。保育學校で晝食を供するのは、幼児の保健衛生に適した食事を攝らせるこいふ目的の他に、その間に幼児の行儀を正し、衛生的習慣を養ふこいふ點に重きを置いたのであるが、保育級では唯ミルクを支給する程度でこの意味の學校給食にまで進んでゐるのは少い。然しマンチェスターが卒先してその改善向上に努力し、最近では幼児學校の校舎の端に南面した建増しを造り、入口も別にし、出来るだけ保育學校に近づくやう、特に保育級のための遊戯場、運動場、浴場、休養室等を造り、晝食を給する他、保育學校と同じく特別の事情のある兩親のために終日子供を預かるやうになつて來た。

## 三

保育學校(級)は戦後の特別の事情によつて生れたものであるが、フレーベル及びモンテッソーリの教育思想をその保育の實際に反映させ、量的にも質的にもイギリスに於ける保育史に一大時期を劃すこいふ事になつた。更にそれはモンテッソーリ式兒童實驗の中心地になつて、その後の保育にますます大きな影響を與へたこいふ事を思へば、決して忘れるこいふ出来ない功績を残したものと言はねばならない。保育學校の保育原理は純然たる生活教育とも言ふべく、教授は一切行はず、生活の間々にその一々の言行動作に教育的意義をもたせんとしたものであつた。入浴・睡眠・食事の時間を除いては、幼児の日課は小動物の飼育、植物園・花壇の世話、遊戯室の掃除・整頓・食事のしつらへに給仕、齒の手入、教育玩具による遊戯、お伽噺、唱歌、遊戯等で満たされる。そして入浴・食事等には大きな訓練上の意義が伴はせられるこいは既に述べた通りである。

時にこの時代の幼児に著しいこころは、無意識のうちには受ける感化といふことである。彼等の生活は全て無意識の活動に言つてもよい。保育學校はこの事實に特に注意し、保姆は室や諸施設の外見・排列、毎日の行事から自分達の身の廻りにまで細かく心を働かせ、意識下に於て幼児の受ける印象・感化を美しく且つ有益ならしめることに力める。そのため保姆について容貌・音聲の調子・態度・思想・感情等にわたつてかなり嚴密な要求が行はれる。

保育學校の斯うした特徴なり組織なりは幼児學校の方法や氣分に大きな影響を及ぼし、その進歩改善に役立つたことは言ふまでもない。

今日の幼児學校の保育は全てこの生活主義、作業主義、自發活動の原理の下に行はれてゐることを言つてよい。先づ幼児の生育に相應しい適當な環境の附與整理といふことが保育の第一歩である。充分な光線と新鮮な空氣、自由な運動遊戯、幼児の身體的狀態に適した榮養食、快よい眠り——これ等は健全な身體を作る上に大切な條件である。而してイギリスに於ては次第に増加しつつある保育學校、従前より豊かな物質的基礎の上に立つてフレールの遺訓の實現に力めつつある幼稚園は勿論、保育學級や幼児學校に於ても幼児の身體的發育を向上せしむべき建築施設は著しく改良されつつある。次に幼児の魂と精神とを健全に發達せしめるものは賢明に裝備された教室・庭園・教育的意義に富んだ器具・遊具である。それは宛も光線と空氣を十分に消費する自由潤達な運動が彼等の健全な食慾を増すと同様、彼等を精神的に飢渴せしめてその潑刺たる好奇心・興味・知識慾を刺戟するものでなくてはならない。保育學校を中心として行はれつつあるモンテッソーリの科學的兒童心理の研究は、保育上のこの要求に應ぜんとするものである。作業に於ける興味といふことは眞の意味の訓育を可能にする唯一の方法である。一つの問題一つの謎を解くために幼い力の全てを緊張させた努力こそ即ち何よりも効果的な訓練である。かうした保育の効果を完からしめるものは自由である。幼児は自由にその場所を變へ、與へられた

器具・恩物・遊具を自由に使用し、自由に群から出入し、自由に自分の作業を計劃按配することが許されねばならない。以上が世界大戰を一轉機として、モンテッソリーの思想の影響の下に目覺しい躍進を遂げて今日にいたつてゐるイギリスの保育法の概略であるが、リリヤン・ド・リサはその「イギリスの學校」(一八二六)に於て最近の保育が齎した功績に就いて次のやうに言つてゐる。

「保育學校・幼兒學校が國民に致した貢獻は故らに注意を喚起すべく餘りに明かである。幼兒に早くから眞の生活を知らせ、彼等のうちなる全ての性質・傾向・力を引出してその結實をその後の學校教育に委ねるのが保育の任務である、健全なる身體の發育、言語能力・知覺能力の發展・これが保育の與へる意志の強化・一人生への基礎である。更に保育學校に於て幼兒は自信・克己・知的好奇心・正直・勇氣・企劃心・判斷力・獨立の意志決定・協同心・犧牲的精神・親切等の諸徳を養成される。」

#### 四

ド・リサ女史は更に進んでイギリスの保育界が進むべき將來を指示し、今後は保育者即ち保姆の養成に保育學校の發達をはかるこゝがこの事業を大成せしめる上に最も必要なこゝであると言つてゐる。

元來イギリスの教育は社會生活の實際要求に基いて次々立てられたものであつて、政治家や教育學者の指導によつて上から論理的計劃的に定められたものでなく、従つてそこに統一を缺く。而してイギリス人の保守的な傾向は實際上何らかの價値があり効果が見られる限り、舊くなずんで來た制度を捨てるこゝをせず、大概の不合理には我慢するのである。今日でもイギリスの教育系統には二つあつて、一般の公立小學校から中等學校に通じる系統は第三・第四階級のためのもので、上流階級のものはいートンやラグビー等の公衆學校を経てオックスフォード、ケムブリッジ等の由緒ある大學に通じ、昔乍らの嚴然たる階級的對立を示してゐる。保育に於てもこの二つの系統は見られる。即ち公衆學校に入る上流階級の子



弟を收容する幼稚園に對して、公共團體や教會の設立した一般小學校に附屬する幼兒學校があるのはこの爲めである。而して文部省は一九〇八年になつて始めて小學校教員養成のための師範學校内に保姆養成の機關を設くべきことを獎勵したが、なか／＼實現出來ず、一九一八年の教育條例が出るに及んで始めて保育者の資格なるものが公に定められることになつたのである。これに對して幼稚園の方ではこの運動がイギリスに入來つて「國民フレーベル協會」が設立されると共に、保姆養成の機關も設けられ、幼兒學校の保育が資格を問はず小學校教師や或は日曜學校・教會關係者等の素人によつて行はれてゐたに對して、一定の課程を経、一定の試験に合格した資格者のみを幼稚園の保育に任せしめてゐた。シリル・ノルウッドはその「英國の教育制度」の中で「イギリスの教育はその目的も制度も上から下へ傳はつて行つたもので、平板の上の風景畫よりも峰あり谷ある複雑した景色に例へられるが、最近に於ける改革の努力は、峰をならして谷にするのではなく、谷を高めて峰と同一水準に持ち上げるこゝによつて教育の機會を均等ならしめんとしたものである」といふ意味のこゝを言つてゐるが、保育者の養成に於ても、上級子女を收容して早くから充實した内容をもつ「フレーベル協會」の養成制度に於ても範ミなつてゐる。協會の養成所は修業年限一年の基本科と二ヶ年の高等科からなり、その科目は(1)幼兒の性質に關する知識——實際の觀察・心理學概論 (2)自然科學 (3)手工 (4)學級教授——教授批判 (5)音樂・唱歌 (6)黑板習字・圖畫 (7)體操及び衛生學 (8)フレーベル、ペスタロッチの學說 (9)應用幾何學で、高等科に於ては更に之を循環的に詳細に教へる。修了後は「協會」の施す試験に合格して始めて保姆の資格を與へられる。猶この試験はハイスクールやカレッジの卒業者も受けるこゝが出来る。

然し乍ら現在でも幼稚園及び一部の備つた保育學校・幼兒學校を除いては、保育者の素養は著しく低く、有資格者の數は少い。そこでド・リサは次のやうに言つてゐる、「特別の教養を経た保育者がつゞ／＼増加せねばならない。今日保育

に従事してゐる人の大部分はこれに就いて熱意も有たず又特別の訓練も受けてゐない人達である。幼児保育が小學校の教育と異なるのは、準備學校の教育と大學のそれとの違ひよりもつゝ根本的であつて、全然異つた種類の教師と訓練とが必要なのである。唯カレッジに於て特定の科目に關する知識を與へられたゞけでは不十分である。保育者は事柄の知識よりも人間性特に幼児期の特質に對してその注意と興味とを向けねばならない。更に又一定の方向に向つた子供の達成よりも、その全面的生長に注意し、科學的態度よりも人間としての心情に於て子供に觸れ得る人でなくてはならない。その身體に關する知識、子供についての實地の經驗も現在のカレッジで與へられるものよりはるかに多くなくてはならない。こはいへこのこは保育・幼兒學校の教師は知識的教養は低くてもよいといふ意味ではない、否、高い教養と深い知識を有つ人にして始めて幼兒の疑問や困惑を理解して、これを自ら解決を得べき正しい方向に差し向けてやるこが出来るのである。而してその上に人間の最も尊い財たる魂の若芽をやさしくいたはり育てるためには、精神的にすぐれた同情と慈愛に富んだ女性の心が必要なのである」。

## 五

イギリスの保育を將來發展さすべき第二の道は一九一八年フィツシャー條例によつて始められた「保育學校運動」を更に盛大ならしめるにある。これについてリサ女史は「現在イギリスでは五歳以下の子供で何らの身體的教育的保護と配慮を組織的に與へられてゐないものが二百萬以上ある。これは教育の全制度と引いては國民生活そのものへの大きな不幸である。保育機關をその必要ある全ての子供に對して擴張するこは文部當局の焦眉の急務である。保育機關は國民教育制度の基礎その第一歩をなすものでなくてはならない。なぜなら人の教育は搖籃からなされねばならないから。哺育——保育——教育は連續した過程をなすべきものである。」と言つてゐる。